

# ふれあいひろば

新潟市民病院  
広報委員会

[患者とともにある全人的医療]



## 新潟市民病院はBFH認定継続になりました！

2階西病棟 木屋 美穂子  
2階東病棟 飯島 静子

新潟市民病院は「赤ちゃんにやさしい病院：BFH」です。これはWHO・UNICEFが「母乳育児成功のための10カ条」を守っている病院に対して認定するものです。一度認定されれば良いというものではなく、3年ごとに継続のための審査があります。今年、無事2回目の認定継続となりました。

さて、母乳育児と切り離せないのが、人工乳つまりミルクです。母乳だけでは不足するときや何らかの事情で母乳をあげることのできないときに使用します。この、人工乳やフォローアップミルク、その他の乳児用食品や人工乳首などの母乳を代用するための「母乳代替品」について国際的に決められているものがあることはご存じでしょうか。この国際的に決められているものを「母乳代替品のマーケティングに関する国際規準」通称「WHOコード」といいます。BFH施設はこのWHOコードを守っています。

WHOコードの目的は、全ての乳児のための安全で適切な栄養です。この目的を達成するために、母乳育児を保護、促進、支援し、母乳代替品が必要なときには適切に使用されるようにします。また、乳児の栄養法に関する十分な情報を提供します。そして、母乳代替品の宣伝や他のあらゆる形での販売促進活動を禁止します。

最近の話題では、液体ミルクの表記された「母乳は赤ちゃんにとって最良の栄養」について母乳をあげられない母に配慮がないと言われたことも記憶に新しいと思います。しかしこの表記はWHOコードに則っているものです。母乳についての正しい知識や母乳育児

を続けていけるような医療者の支援や社会の構造がまず大切であり、母乳が一番赤ちゃんにとって良い栄養であるという事実、ただ母乳をあげられない、母乳が赤ちゃんにとって必要量に足りていない時にミルクを使用しましょう。ということなのです。

また、以前はミルクやフォローアップミルクのCMを目にする機会があったことを覚えている方はいらっしゃるでしょうか（確実に昭和以前の生まれだとおもいます）。現在はミルクのCMは見ませんよね。これもミルクのCMを禁止するWHOコードを守った結果です。



ピカソ作「母と子」

「母乳育児成功のための10カ条」を完全に実施している施設へ与えられる、BFH認定証です

## 知っていますか？

## 今、保険で入れられる冠（補綴物）の種類が増えています

歯科口腔外科 高田 佳之

歯の治療で歯冠部（歯の頭の部分）が虫歯などで大きく無くなった場合、冠を被せることになるのですが、最近その冠の材質に様々な物が使われるようになってきています。

これまでは、保険で認められている金銀パラジウム合金による冠が一般的で、前歯ではこの金属の土台に虫歯の治療で穴を埋め立てるのに用いられるレジンという歯の色をした材質を貼り付けたレジン前装金属冠で治療を行なっています。

近年、レジンも改良され強度が増したことから単独で冠にも使用されるようになり、また色調の綺麗なセラミックや強度の高いジルコニアなどのノンメタルな材料も加わってきました。ただ、それぞれの材料に一長一短があり全ての症例に用いることはできないことと、自費診療となるため高額でなかなか一般的ではありませんでした。

しかし、最近あることがきっかけでいくつかの材料による冠が条件付きではあるものの、保険導入されています。

そのあることとは、金銀パラジウム合金の価格の急激な高騰です。パラジウムが自動車の排ガス中に含まれる有害物質を無害化する触媒やコンピュータなどの電子部品として世界的に使用量が高まったためです。そのため保険で設定された点数では採算が合わなくなってしまったのです。

新しく保険導入された冠は、レジンのブロックを機械的に削り出して作るC A D /C A M冠とチタンを鋳造して作成したチタン冠の2種類です。ただ全ての部位に認められているわけではありません。

C A D /C A M冠は材質の強度などから当初は小臼歯（前歯から数えて4番目と5番目の歯）のみが適応でした。その後、金属アレルギーの患者にのみ大臼歯（6、7、8番目の歯）も認められるようになり、さらに2017年12月から下顎の第一大臼歯（6番目の歯）にも適応が広がられました。ただこれには上下両側の第2大臼歯が存在していることが必要となっています。

さらに2020年9月からは前歯部にも適応が広がられています。

C A D /C A M冠の色調は歯の色をしているため綺麗なのですが、強度は金属には及ばないため欠けたり、すり減ったりすることがあります。そのため十分な厚みが取れることも必要な条件となっています。また接着性も劣るためやや外れやすい傾向も認められます。

チタン冠は歯科鋳造用チタンを用いた全部金属冠です。チタンは電気化学的に安定した金属で生体親和性が良いことから歯科用インプラントや骨折の固定用のプレートやスクリューに用いられています。ただ、作成することが従来のものに比べ非常に難しかったことから、金属アレルギーのある患者さんなどに限られて使用されていました。技術の進歩もあり2020年6月より上下全ての大臼歯に対して保険適応されるようになりました。色調は多少従来のものよりくすんだ感じはしますが、ほとんど区別はつかない程度です。

これまでは保険で治療すると、金銀パラジウム合金の冠の一択のみでしたが、最近は他の材質の冠も選択できるようになりました。ただ、適しているかどうかについては色々な条件がありますので、一度かかりつけの歯科の先生と相談することをお勧めします。

全部金属冠（金銀パラジウム合金）



C A D /C A M冠



チタン冠



## 総合診療内科 矢部 正浩

足のむくみは多くの人が困る症状で、総合診療内科にもよく相談があります。体重の変化がないむくみ、1日の中では体重が1～2kg変化しても毎日の体重がほとんどかわりない場合のむくみは、大きな問題とならないことがほとんどです。加齢や体重増加、運動量が減ることなどにより足の静脈機能が低下することが原因と考えられています。この場合には塩分を取りすぎないこと、歩いたり運動を心がけること、30分くらい足を心臓の高さより上にあげることを1日数回行うことが有効です。ふくらはぎサポーターという下腿につけるきつい靴下のようなものを履くことも良い方法です。

50歳以下の女性で、他に病気がない場合、体の水分調節がうまくいかない特発性浮腫と呼ばれる病気のこともあります。この病気は危険になることはなく、対応は上記と同じになります。

数日から1～2週間で体重が3～5kg以上増える場合には、心臓や腎臓、肝臓などの病気を考える必要があります。血液を身体中に回すポンプの働きをする心臓の働きが落ちている心不全が代表的な病気ですが、心筋梗塞や心臓弁膜症などの病気が原因となります。息切れ、動悸、呼吸困難など

を伴い、動けなくなることも多いです。水分を体から出す腎臓の働きが落ちている腎臓病や、腎臓から尿の中に体のたんぱく質が漏れ出てしまうネフローゼ症候群という病気が原因になることもあります。腎臓病の場合は健康診断などで以前から腎臓の働きが落ちていたりたんぱく尿がみられたりしていることもあります。何らかの感染や痛み止めの薬剤がきっかけで急に起きることもあります。肝硬変の重症の場合もむくみますが、B型肝炎やC型肝炎などで治療を受けていない場合、アルコールを取りすぎているなどの場合になります。肝硬変の場合は腹水もみられることが多いです。まれですが甲状腺の病気や重度の貧血、静脈血栓が原因のこともあります。やはりまれですが薬剤の影響でむくむこともあります。

血圧や糖尿病の治療薬、痛み止めの一部などが原因となりますが、薬剤が必要で処方されていることから、不安にかられて薬を突然やめたり、突然他の医師に相談するのではなく、まず薬を処方している医師に相談をしてください。

## 登録医の紹介

- 【 医院名 】 あきはクリニック 【 代表者名 】 院長 坪井 清孝  
 【 診療科目 】 内科、消化器内科、乳腺外科、肛門外科  
 【 住所 】 〒956-0031 新潟市秋葉区新津5149-11  
 【 電話番号 】 0250-47-8727  
 【 診療時間 】 月、火、木、金曜日 8:30～13:30、15:00～18:30  
 水、土曜日 8:30～14:00  
 休診日：水、土曜日の午後、日曜日、祝日

## 【 特徴と診療方針 】

内科（生活習慣病やかぜなど）、消化器内科、乳腺・肛門疾患の診療の他、特定健診、がん検診、人間ドックなど幅広く診療を行い、皆さまの健康をサポートさせていただきます。地域の皆さまに信頼されるクリニックを目指しスタッフ一同努力してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。



# 慢性的な痛みに対するパルス高周波法 (PRF : Pulsed Radiofrequency Stimulation)



ペインクリニック外科 傳田 定平

ペインクリニック外科は慢性的な痛み悩む患者さんに神経ブロックや薬物療法を主体に治療を行っています。たとえば、頸椎に由来する上肢の痛みや椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症による下肢の痛みは神経根が圧迫されて起こります。また、帯状疱疹に由来する痛みは脊髄後根神経節で水痘・帯状疱疹ウイルスが活性化して起こります。

神経ブロックはこのような痛みに関係している神経に直接、局所麻酔薬を浸潤させることで強力な鎮痛を得ることができます。

しかし、局所麻酔薬の作用時間は一定であるため神経ブロックは痛み有効であるが長続きしないことを日々の臨床の現場で経験します。このような場合、患者さんは「もっと、(鎮痛効果が)長続きすればなあ～」と言われます。こういった期待に応える一つの方法としてパルス高周波法 (PRF) があります。

この方法は、神経の構造にダメージを与え

ることなく、目標とする神経に electrical field(電界)やheat burst(熱)を与えることで効果を発揮します。PRFの除痛機序はよくわかりませんが、知覚神経に対して選択的に作用する、脊髄後角で痛みに関係する神経の活性を抑制する、痛み神経に影響を及ぼす炎症性物質の分泌を抑制する、脳や脊髄がもともと持っている痛みを抑えようとする神経の働きをより活性化させるといったことが考えられています。

X線透視や超音波を用いて目標とする神経に針を進めます。針先が神経の近くにきたら電気刺激をしていつも痛い場所に刺激を感じたら造影剤で神経を見えるようにし、その後6分間、42度で神経に熱を加えて終了になります。

対象となる痛みは頸椎や腰椎に起因する神経根由来の痛み、帯状疱疹に関連した痛み、後頭神経痛、膝の痛み、陰部の痛みなどです。



治療風景



腰部脊髄神経根性の  
痛みに対する治療



造影された神経に  
電極が接している